

(仮)きたもと農家テラス(北本農業ふれあいセンター) リニューアル計画

人が集うトマトの街

人が街を育て、街が人を育てる 地産地消の街 北本市

『きたもと 野菜ざんまいライフ』

～農ある暮らしがはじまる～

～農家とつながってライフスタイルが変わる～

きたもと農家テラスとは・・・

農業を体験したり、野菜を買ったり、食べたり、イベントに参加したり、人々が気軽につどえる施設として、北本市農業ふれあいセンターを新しく『(仮)きたもと農家テラス』とネーミングします。

『きたもと農家テラス』の方向性と特徴・魅力

スーパー等競合施設との差異化を配慮しつつ、北本市で最も農家と交流、農産物とふれあうことのできる拠点を目指す。また、市の魅力、市の観光を発信する観光拠点を目指す。

「農家テラス」の方向性

1. 農家と交流「農家テラス」

⇒農産物を買う・食べるに加え、その生産者と顔が分かり、つながることのできる場。

2. 農業を知る、学ぶ「農家テラス」

⇒農家や農産物だけでなく、農業そのものに触れ、学ぶことのできる場。

⇒「農ある暮らし」のきっかけの場。

⇒北本の農産物でより「健康」になれる場。

3. 多様な人が集う新たな観光拠点「農家テラス」

⇒従来の利用者＋新たな層（20～40代の子育て世代、市民・周辺住民等）＋観光客が利用することで、北本の発信と交流の拠点となる場。

「農家テラス」の特徴・魅力

- 生産者のこだわり・思い
- ここでしか買えないもの、一般流通にのりにくいもの

北本産の野菜・フルーツ

イケメン野菜

伝統野菜（ナス、大根、ねぎなど）

希少な野菜（新規も含めて）

- 大宮台地上の豊かな土壌
 - ・泥で火山灰土壌。周辺市町とも土壌が異なる。
 - ・どの野菜も美味しい。
 - ・一年中、旬の野菜が買える。

- 農家と直接つながる
 - ・どこの誰がどのように作ったかが分かる
 - ・農家と会う、交流する

農業体験・講座

加工体験

農家販売イベント

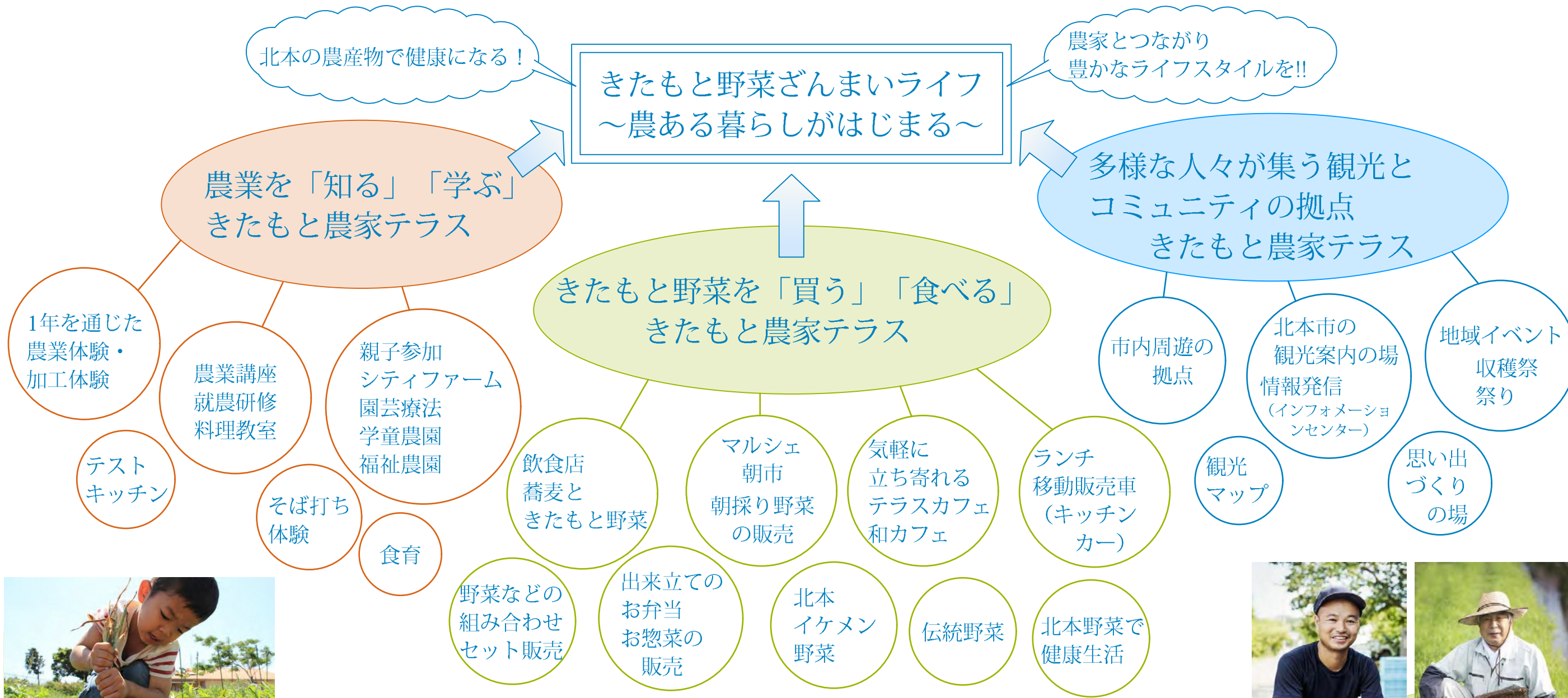
農家レシピ

- トマトのまち 北本

北本とまと祭り、トマトメニュー等
グリコ、里山・自然などの観光資源

『きたもと農家テラス』のコンセプト

『きたもと農家テラス』のコンセプトを以下の通りに設定する。



きたもと農家さん ベテラン農家さん イケメン農家さん

『きたもと農家テラス』の具体サービスとリニューアルによる効果

コンセプトを受けて、主な具体サービス、必要な改善策、リニューアルによる効果を以下に整理する。

主な具体サービス

- 農業体験・加工体験（隣地の畑での体験、講座、観光農園との連携等）→体験農園エリアの新規整備
- 桜国屋での地産地消の品揃えの充実（伝統野菜、希少品種、イケメン野菜、加工品、単日複数回出荷等）
- 北本農産物の情報発信の強化（農家、土壌、健康 等）
- 当該施設の情報発信の強化（webサイト、SNS等）
- リピータの確保（会員制、市民デー、特別割引等）
- カフェの新設
- さんた亭のメニュー改善
- 弁当・惣菜の開発・販売
- 加工品の開発支援・販売（ジュース、漬物等）
- イベントの充実（農家による販売・イベント、市内飲食店とのコラボ、観光周遊ツアー等）
- レシピ提供・セット販売

必要な改善策

- ハード面の改修
...建物、看板等の改修
- 設備・施設の増設
...カフェ、調理設備の新設・増設
- 運用ソフト改善
...営業時間の変更、売り方の工夫、情報発信の強化 等
- イベント開催
...休日の広域集客を図るイベント
...農業体験の拠点づくり
- 農家との協働の推進、役割分担

リニューアルの効果

- ふれあいセンターの利用客・売上増
- 農家の収入増加・参画増加
- 高付加価値化
...惣菜・弁当・加工品開発、伝統野菜等の希少な品目の生産
- 市内事業者（加工事業者、飲食店等）への経済波及効果
- 観光振興（市内観光周遊の促進）
- シティセールス

現行のふれあいセンター（桜国屋、さんた亭等）を「施設エリア」、北側に隣接する農地を「体験農園エリア」として計画を行う。

「施設エリア」は早期の整備を目指し、「体験農園エリア」は、今後、基本計画の作成などにより、整備の検討を行う。

施設エリア

施設エリアの計画はNO.5～NO.10へ

場所 埼玉県北本市深井7丁目265番地4他
(用途地域指定なし)

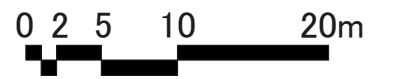
施設敷地面積 6794.1㎡

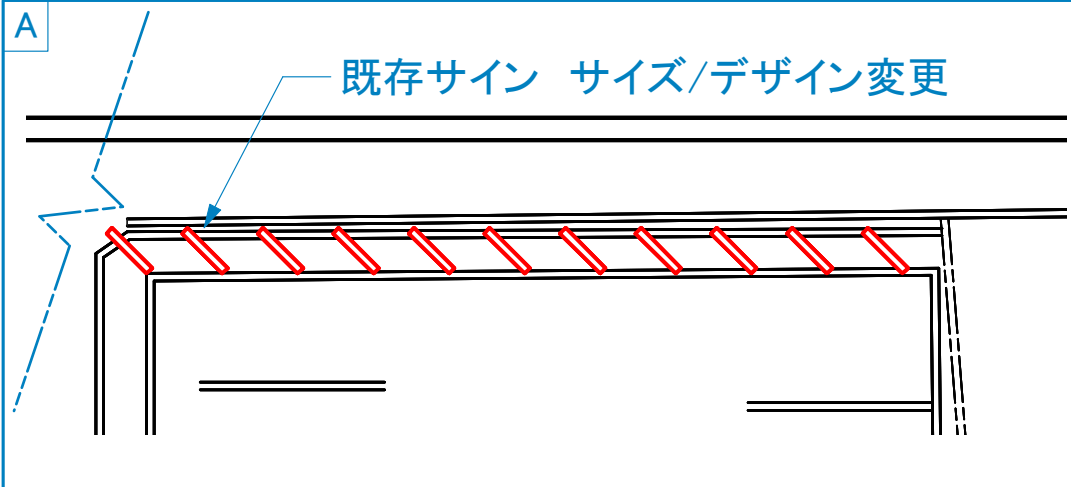
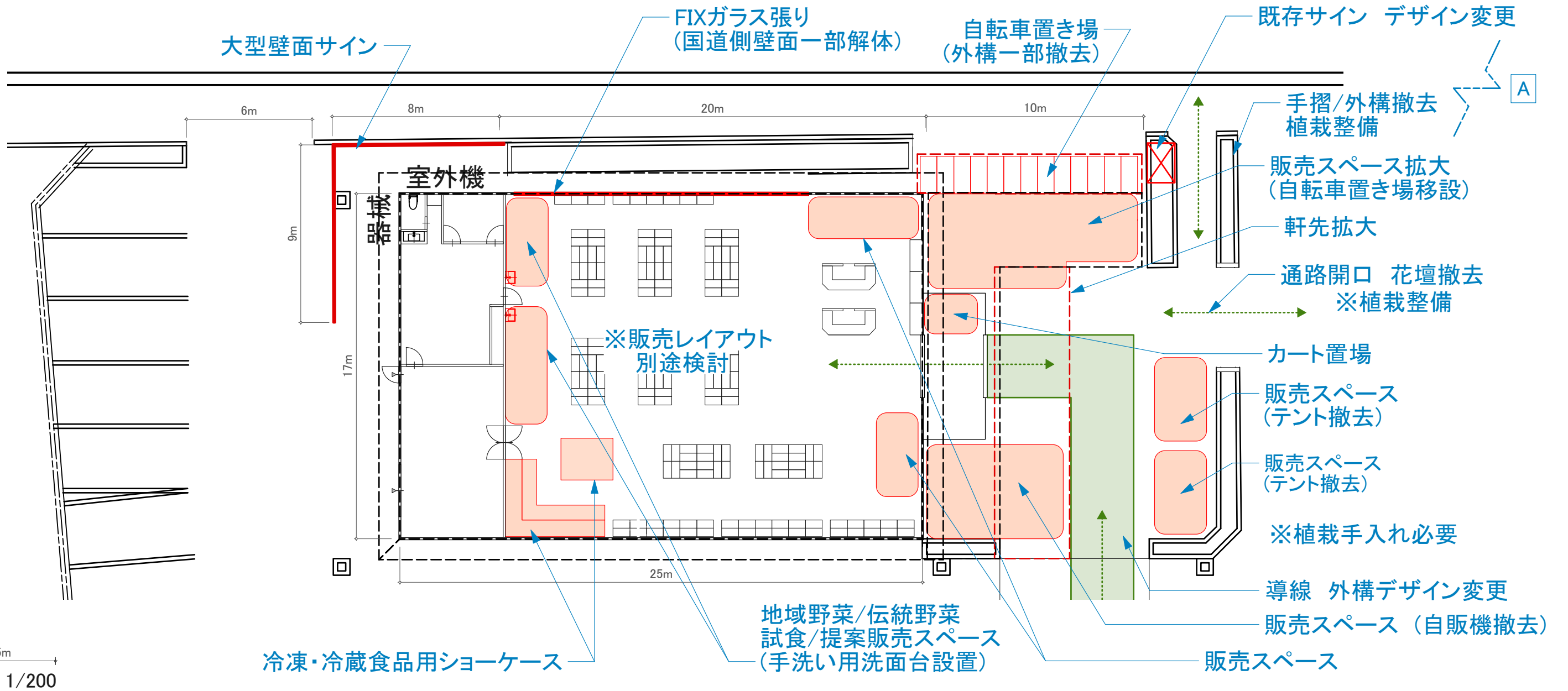
桜国屋 /鉄骨造 1階建て / 建築面積 505.00㎡
さんた亭 /木造 平屋建て /建築面積 132.49㎡

体験農園エリア

体験農業施設/トイレ/加工所
/テストキッチン/駐車場/芝生エリア
/こどもひろば（遊具設置）
/ビニルハウス/畑/フラワーガーデン

体験エリアの計画はNO.11～NO.12へ





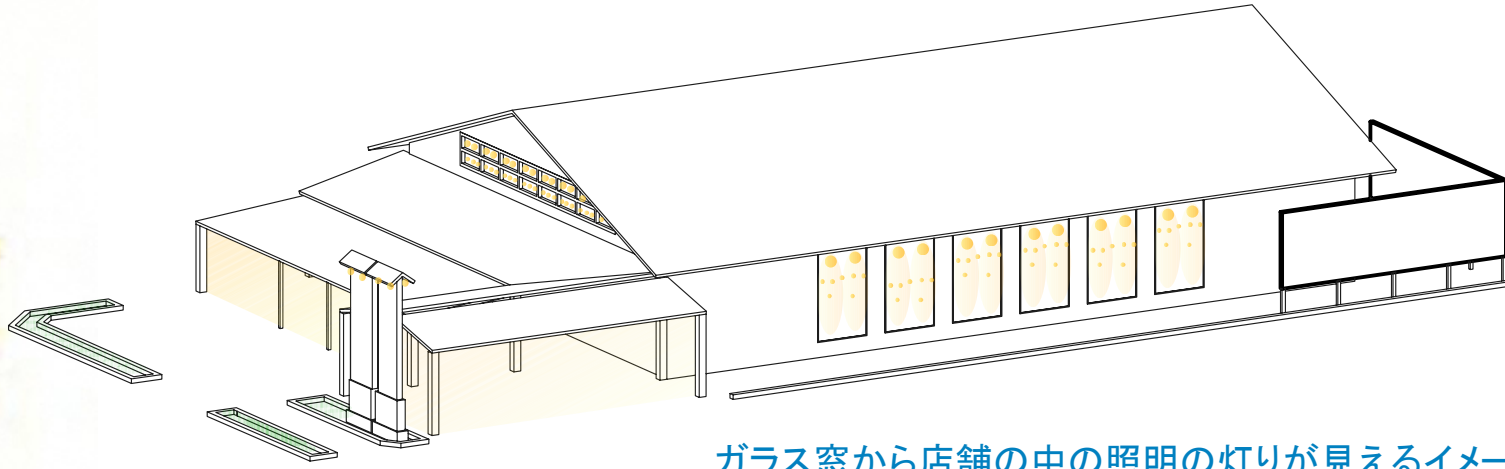
■国道側からの認知度を上げる

- ①国道側壁面をガラス張りにし、店内照明の明るさを外からも見えるようにする にぎやかし感を演出する
- ②対向車線側からも見える大型看板を設置
- ③既存の縦型看板のデザイン変更
- ④店舗フロントのテントを撤去、植栽の手入れ、自転車置き場を移設し、販売スペースを確保し、店舗ファサードを整える
- ⑤駐車場側の既存サインのサイズとデザイン変更

■販売スペース

- ①照明プランの変更
- ②販売スペースのレイアウト変更
- ③地域野菜/伝統野菜の試食提案販売のスペースを設置
- ④冷凍・冷蔵食品販売のための大型ショーケースを設置





ガラス窓から店舗の中の照明の灯りが見えるイメージ



店舗がガラス張りのイメージ

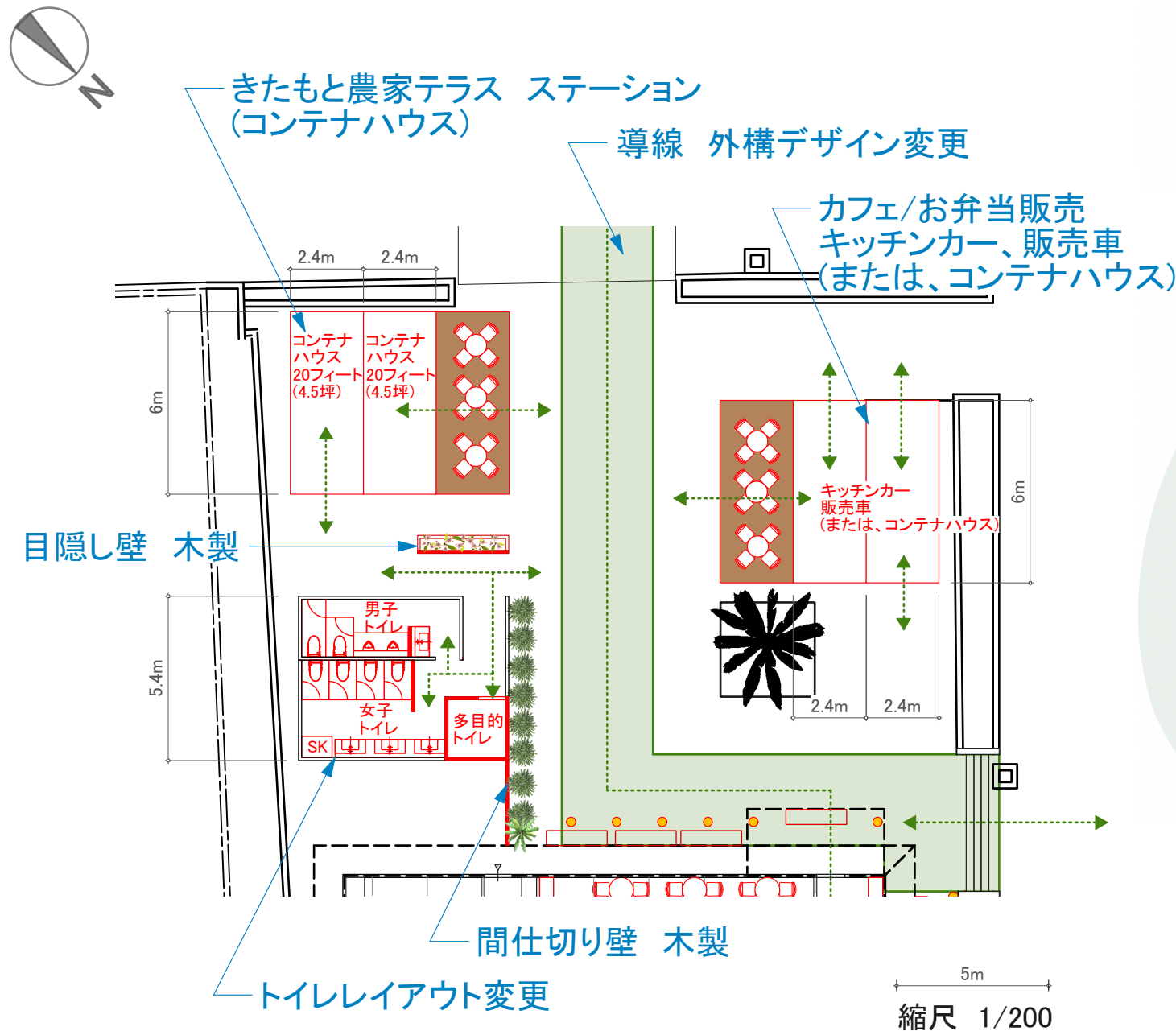


照明のある什器イメージ @道の駅しもつけ



照明のある什器イメージ @道の駅日光

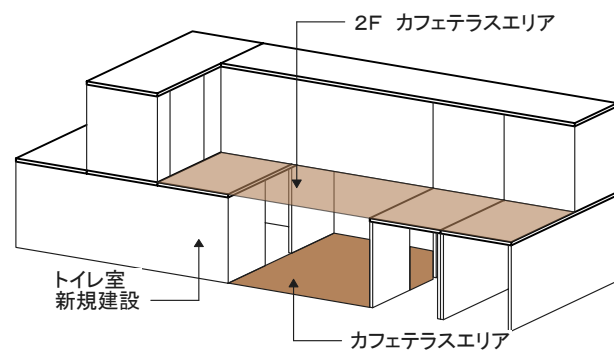
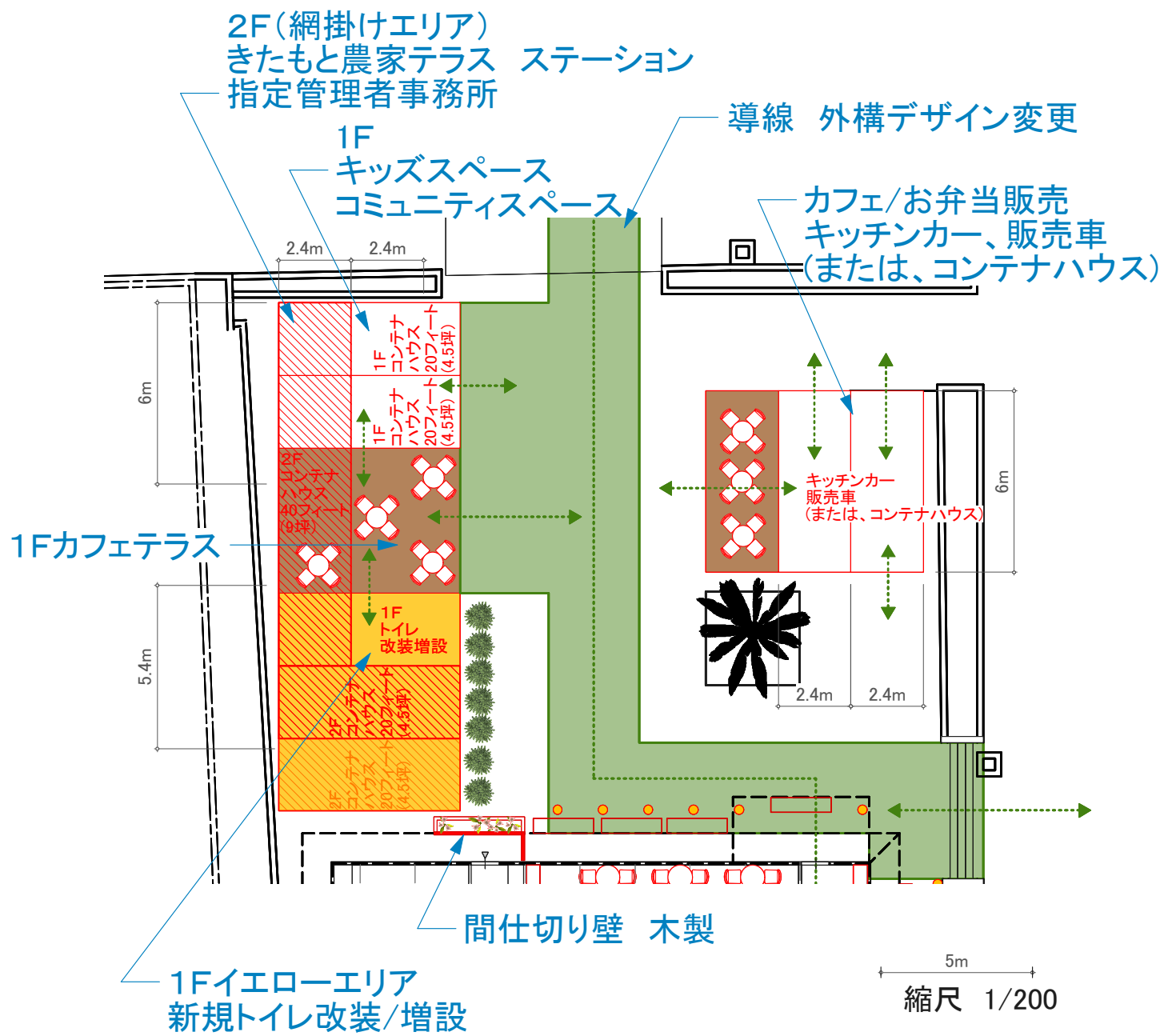




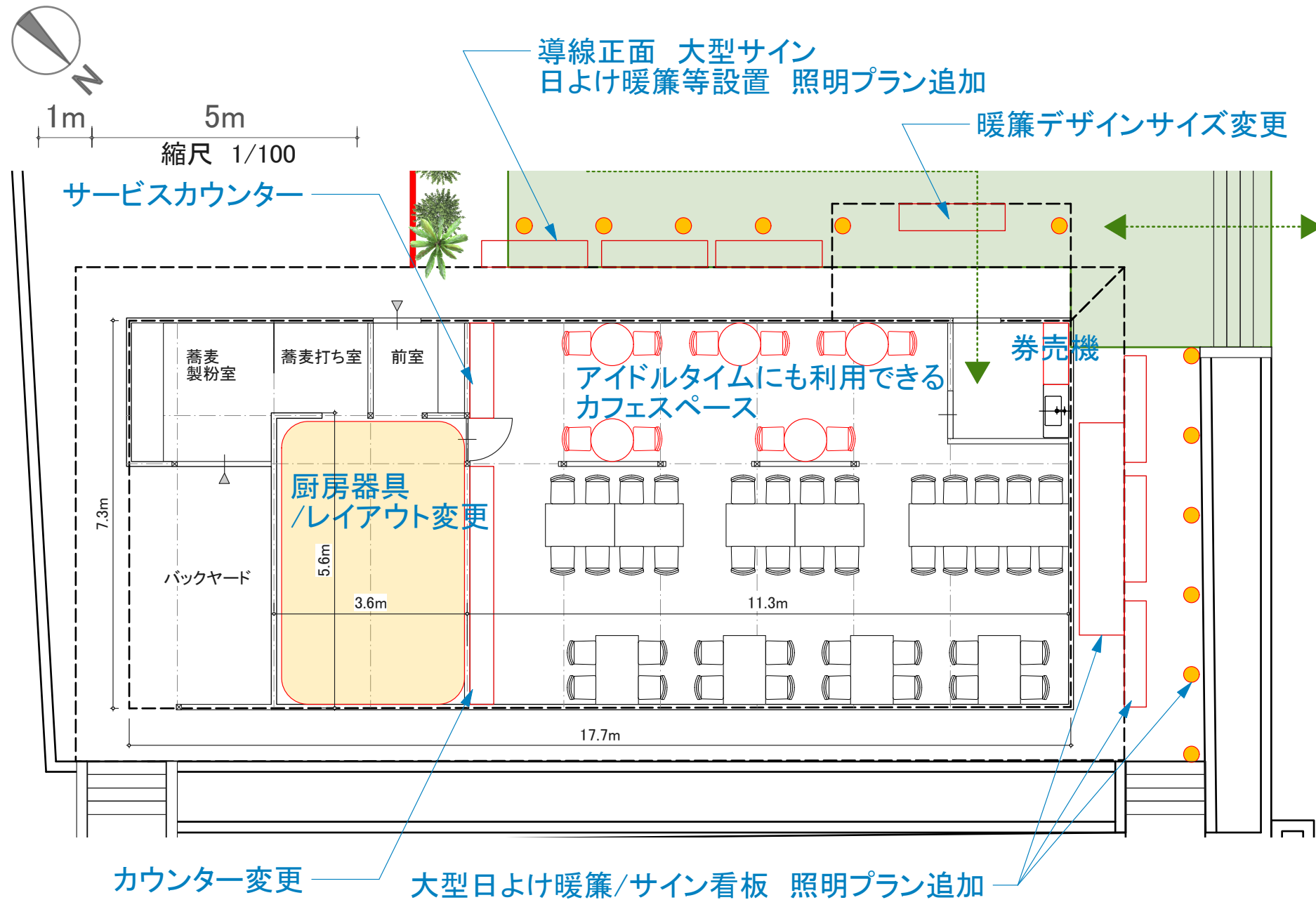
- カフェ/お弁当販売
 - ①コンテナハウス(固定)または、キッチンカー、販売車(移動式なので日替わり可能)でお弁当やカフェの提供
- きたもと農家テラス ステーション
 - ①コンテナハウス(固定)を設置し、カフェ(イートイン)や、農業体験の案内や休憩場所、観光案内所として利用 ※給排水/電気設備工事あり
- トイレ
 - ①既存間仕切り利用のうえ、男子トイレと女子トイレの位置を入れ替えレイアウト変更し、男女ともに便器の数を増やす。
(現状/女子トイレ 和便器1+洋便器1/男子 大便器1+小便器2)
 - ②飲食店側の入り口を塞ぎ、木製間仕切りと花壇と植栽にて見え掛かりの変更
 - ③テラスステーション側にも木製間仕切りと花壇で、目隠しを設置



『きたもと農家テラス』 広場リニューアル(第2案) ~指定管理者事務所&コミュニティエリア設置~



- 2階建てコンテナハウス
 - ① おしゃれで目立つ設計デザインの2階建てコンテナハウスにすることで、施設を目立たせ、認知を高める
- 管理事務所の設置
 - ① きたもと農家ステーションとして、指定管理者事務所を設置
- コミュニティエリア
 - ① キッズルーム、コミュニティスペース、カフェテラスのスペースを設置
- トイレ
 - ① 既存トイレ撤去、スペース拡大、設備増設



蕎麦屋 暖簾/日よけ暖簾 イメージ



和風カフェ イメージ



和風カフェ イメージ



地元野菜を取り入れたメニューイメージ



和風カフェ メニューイメージ



和風カフェ メニューイメージ



和風カフェ メニューイメージ



和風カフェ メニューイメージ

■ 飲食店の視認性をあげる

- ① 販売施設からの導線の正面に、大型日よけ暖簾を複数設置し、それに連動して既存の暖簾をデザイン、サイズ変更
- ② 駐車場からの視認性をあげるため、植栽をととのえ、サインや日よけ暖簾を設置 駐車場からの導線設置
- ③ 外部照明プランを計画設置
- ④ 販売施設からの導線の外構を飲食店施設までつなげデザインする

■ カフェスペース

- ① 既存窓側カウンターを撤去し、アイドルタイムにも利用可能な和風カフェスペースにレイアウト変更
- ② 既存壁 一部撤去 券売機移設

■ お弁当やお惣菜の加工販売

- ① お蕎麦飲食店舗+お弁当やお惣菜の加工ができるための厨房器具とレイアウトの変更 (お弁当/お惣菜は、販売センターでも販売)
- ② カウンターの変更

※ 営業スタイルの変更検討

夜営業 宴会対応などを検討必要 それに合わせて店内のトレーニング必要



照明ランプ 交換



施設のロゴマークを作成し大きく表示 ※画像はサンプルです

ロゴイメージ例



トイレ/駐車場 マークを上部に配置し大きく表現する
トイレ休憩ができる開放的な場所をアピール

飲食店施設のロゴマークを作成し、トイレ休憩と食事ができることをアピール
飲食店名と、ロゴマークは、飲食できるイメージのものを新しく検討必要
(※画像は、サンプルで貼り付けています。箸のマークが飲食イメージを表現しています。)

現在のロードサイド看板と同等サイズの大型看板を追加
「野菜」「販売」等の文言を検討し、大きく表示
色デザインもロードサイドから見やすく、認識できるものにする ※画像は、サンプルです。

- ①ドライバーに認識しやすい、大きいサイズに変更
- ②目を引くデザインと文字数に変更
- ※例1 フォントを手書き筆文字風にし、地域野菜イメージを出す
- ※例2 ベースを目を引くカラーにすることで、文字色を統一し、認識しやすくする

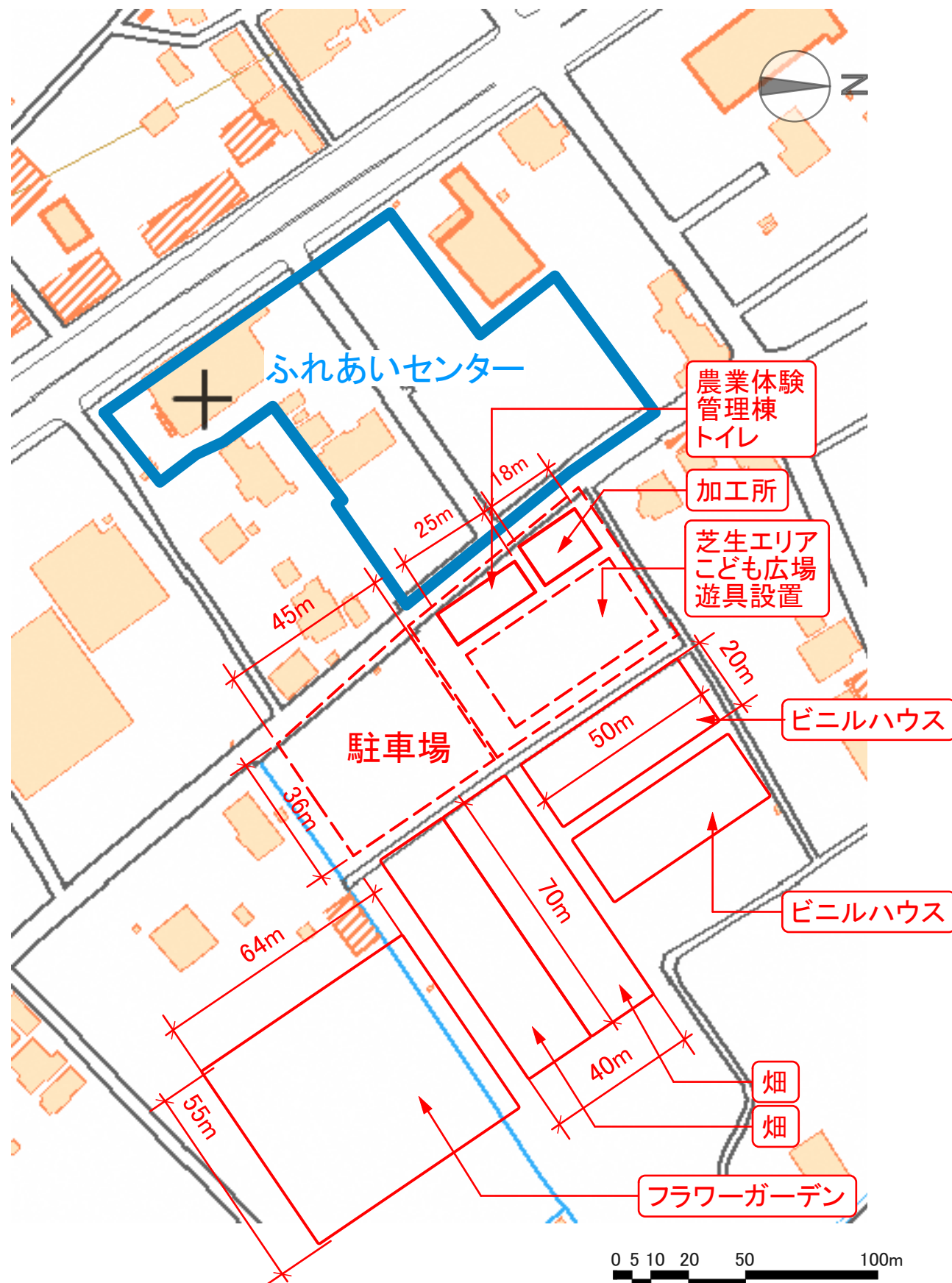
例1 デザインのサンプル 筆文字



例2 色合いのサンプル
カラーベースにすることで、目を引くデザイン



体験農園イメージ ～イケメン野菜を育てる！



■一年を通じた体験プログラム

- ・大宮台地の豊かな土壌を活かし、様々な野菜を育てる。
- ・「イケメン野菜」「伝統野菜」など、北本ならではの野菜も育てる。
- ・畑の準備、種まき、草取り、摘果、摘芯、収穫など、1年を通じて、土に触れるプログラムを準備する。

■カフェ、飲食店の野菜も栽培

- ・施設内のカフェ、飲食店で使う野菜も栽培し、その日に収穫した野菜を調理し、お客様に提供する。
- ・カフェ、飲食店のお客様を、体験農園のお客様にも提供する。

■教育農園・福祉農園

- ・市内の幼稚園、保育園、小学校と連携し、さつまいもなど、教育農園を計画する。
- ・高齢者施設、福祉施設等と連携し、福祉農園の検討も行う。
- ・種まき(苗植え)～収穫まで、1年を通じて、畑にふれ合っていたく。

■農家による農業講座

- ・家庭の畑、市民農園などで、土いじり、農業への関心が高まっている。
- ・農家が講師を務める、プロによる農業講座の実施を検討する。

■ フラワーガーデン



■ 1年通じて花が咲くフラワーガーデン

- ・菜の花、レンゲソウ、マリーゴールド、ひまわりなど、各季節に花が咲くフラワーガーデンを整備する。
- ・定期的な管理が少ない作物を選ぶ。
- ・フラワーガーデンをきっかけに、北本の農業に関心をもっていただき、本施設に通うきっかけとする。
- ・花が咲く時期には、ガーデン横にテント等で、北本野菜のテイクアウトメニューを販売する。

■ ビニルハウス



■ いちご、トマト等のビニルハウス

- ・北本と言えば「トマト」。トマトを栽培し、収穫体験を実施する。
- ・観光農園として、首都圏、さいたま県内でも人気が高い、いちごの施設栽培を実施し、観光農園として、展開する。

■ 管理棟・加工所



■ 農業体験エリアの管理棟

- ・農業体験エリアの管理棟を整備する。
- ・利用者のための着替え、農機具置き場、事務所、会議室、トイレ等を配置する。

■ 農家向け加工所

- ・北本の農産物の高付加価値化、お客様に対し、多様なシーンで北本の農産物を食べていただけるように、加工所を整備し、加工品づくりを推進する。
- ・菓子、惣菜、味噌などの製造を想定する。
- ・利用者向けの加工体験も開催する。
- ・テストキッチンの整備も検討し、料理教室など、広く市民にも活用できるようにする。

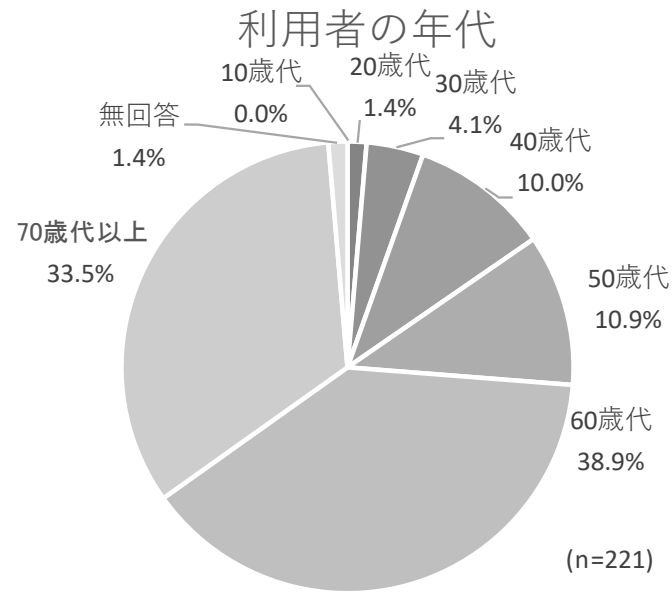
■ 体験農園エリアの管理～農家との交流

- ・専従の職員を配置する。農業関連機関のOBなど、農業経験の豊富な方に依頼する。
- ・農業青年会議所、直売所出荷協力会、農協など、地域の農業関連機関が体験農園エリアの企画や運営に 全面的に携わる運営体制を構築する。
- ・農家の想いを利用者届け、多様な利用者と農家との交流を 深める施設運営を目指す。

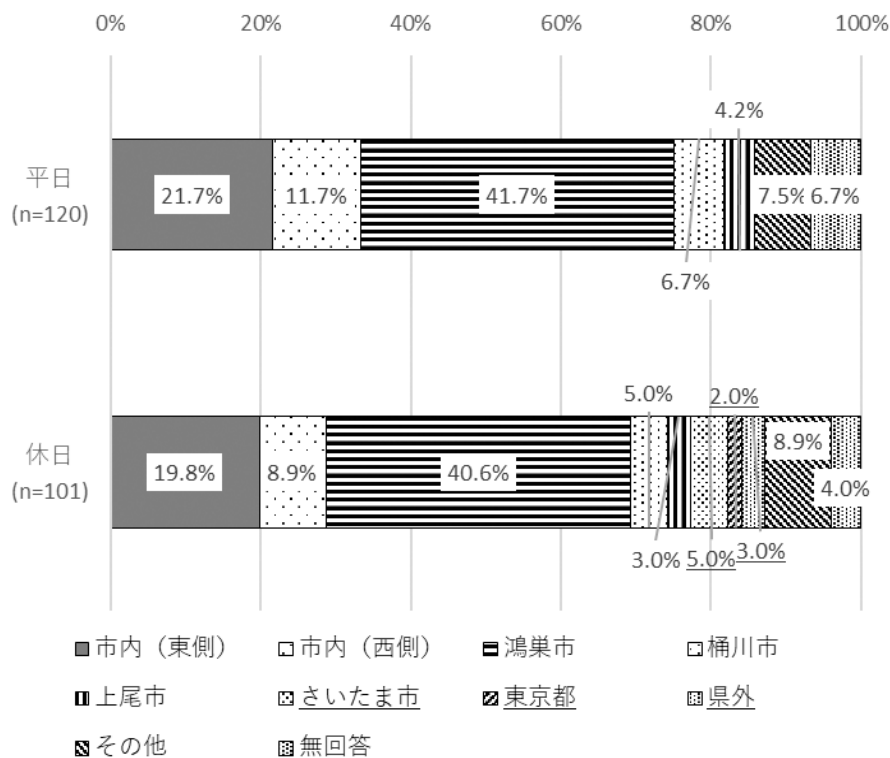


＜現行の顧客＞

- ・60歳代以上が7割超。
- ・市民3割、鴻巣4割程度。
- ・休日は広域からも集客あり。



利用者の居住地



(昨年度利用者アンケート調査より)

新規に集客が必要

平日

休日

市民・周辺住民シニア層

市民・周辺住民女性

市民・周辺住民親子

学校・幼稚園・保育園等

市民・周辺住民ファミリー層

普段使いリピート

観光客

癒し、楽しみ、人間関係の構築

20~50代人口が3km圏内に4万人超、市内に3万人超、居住している。

具体方策

洗練された飲食・カフェ空間
洗練された買い物空間

北本産の野菜、イケメン野菜、伝統野菜
北本野菜(イケメン野菜)の惣菜、加工品
イケメン野菜メニュー

1年を通して通える農業・加工体験プログラム
1年を通じて楽しめるフラワーガーデン
ビニールハウス観光農園

農業講座・研修／就農研修

教育農園など食育の場

市内周遊(グリコ、里山・自然、トマトのまち)
親子・若者、観光客向けへの情報発信

農家との交流、関係構築

野菜ざんまいライフ
～農ある暮らしがはじまる

■ 指定管理者制度*への移行

現状の業務委託から、指定管理者制度に移行することを検討し、民間ノウハウをより活かし、利用者へのサービスを多様化、向上させる施設運営を進める。

*2003年9月施行の地方自治法の一部改正によって、公の施設(スポーツ施設、都市公園、文化施設、社会福祉施設、観光施設など)の管理方法が、管理委託制度から指定管理者制度に移行した。これまで公の施設の管理を外部に委ねる場合は、公共的団体(いわゆる外部団体)に限定されていたのを、民間事業者、NPO法人などにも可能にした。集客向上、利用者の満足度向上、管理費の削減など、民間事業者の発想をより取り入れやすいなどのメリットがある。

■ 多様な協働によるALL北本での運営(イメージ)

